

【出題形式・方針】

全問マーク式の四者択一形式を基本に据え、多様な設問を通して、受験生の読解力・語彙力・論理的思考力を総合的に評価している。

現代文では、空欄補充・傍線部説明・理由把握・内容一致など、文脈の理解を重視した読解力・論理的思考力をはかる設問を中心に構成している。それらの問題の中には語彙力も必要とする問題を交え、さらに語彙力を確認するために漢字・熟語についての問題も出題している。

古文については、空欄補充・現代語訳・傍線部説明・理由把握・和歌の修辭法・内容一致など、多角的な観点から文章の読解力・論理的思考力を評価している。

出典の選定にも幅を持たせており、現代文では論理的思考力を必要とする哲学的な評論や現代の社会・文化についての解説文から、深い読解力を必要とするエッセイまで、多様な文章に触れる機会を設けている。古文では、中古・中世の随筆・説話に加え、韻文（和歌）・物語・法話・近世の文章といった、高度な読解力を必要とする素材を積極的に用い、古典文法や語彙の理解だけでなく、文脈・因果関係の把握や背景知識の活用を通じた総合的な読解力・論理的思考力を求めている。